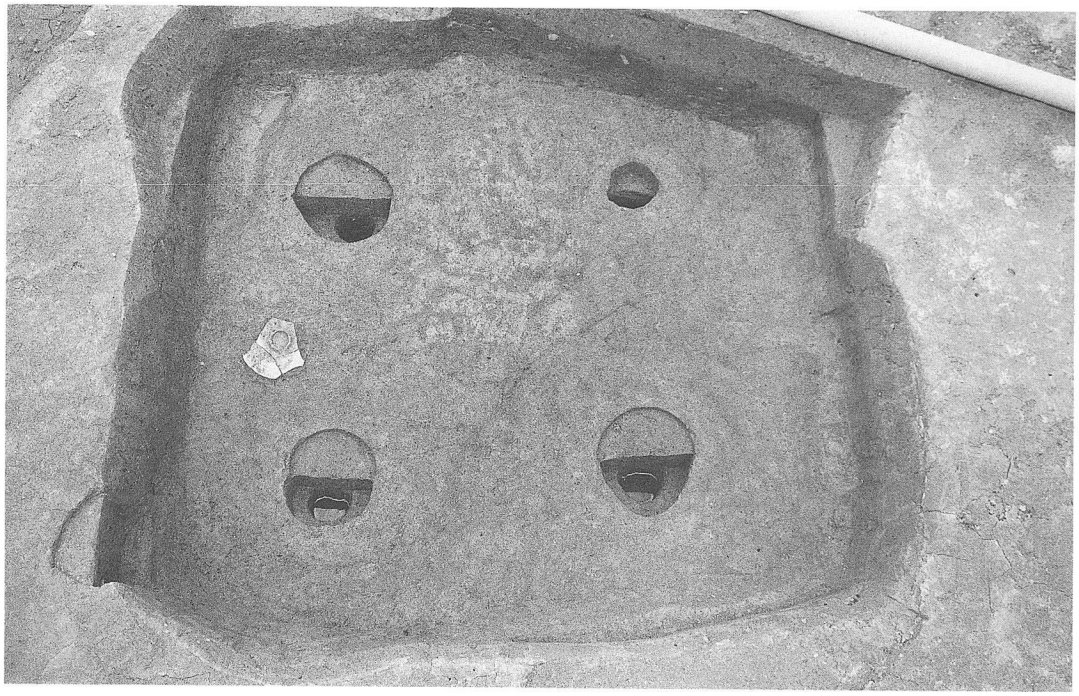
図版第 8



竪穴住居状遺構

平安後期・
鎌倉面全景

P 110
土器出土状況

P110　頭骨出土状況

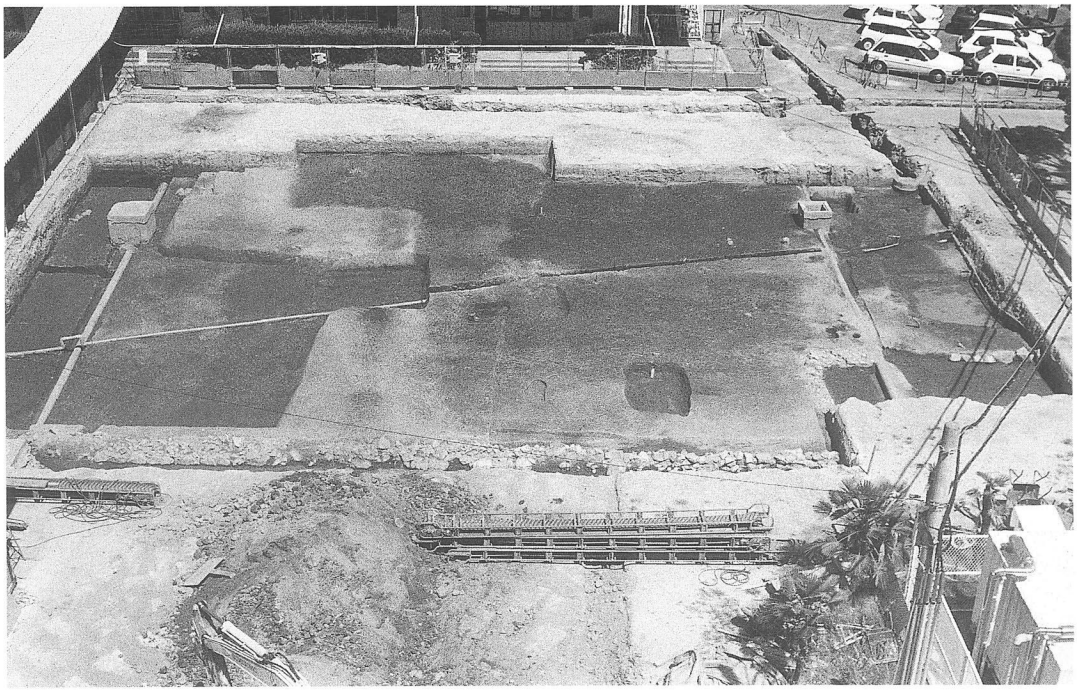
P110　頭骨出土状況（拡大）

図版第10

P80

P134

P135



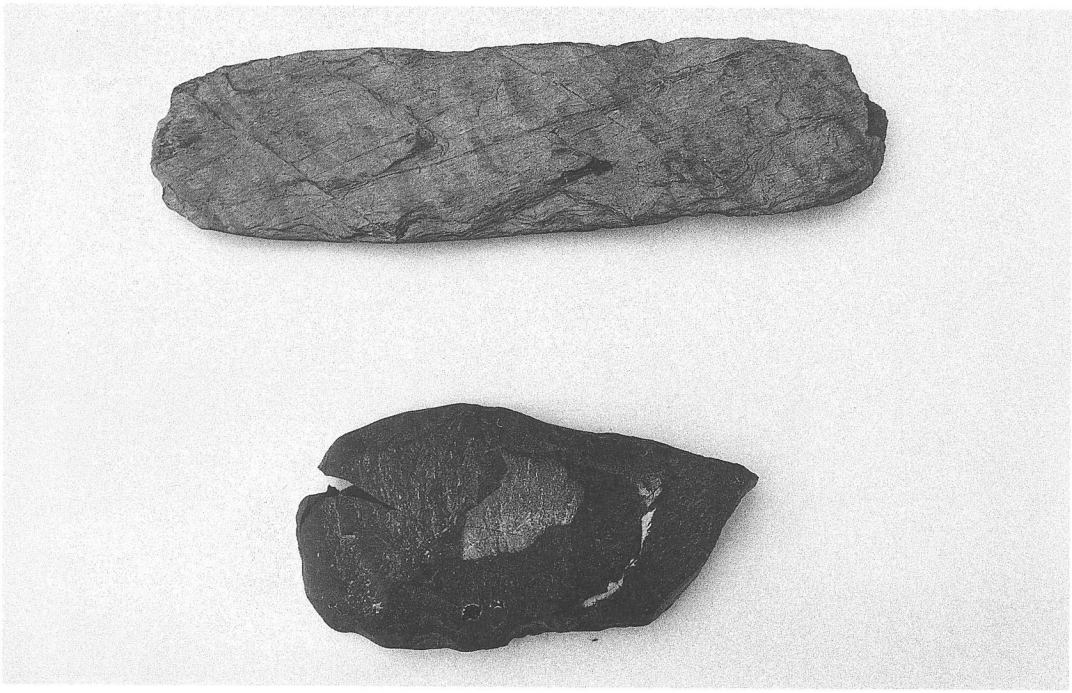
近世面全景

土壙墓 2

土壙墓 3

竪穴住居14
出土物

竪穴住居14
出土物



打製石斧
（石鍬）

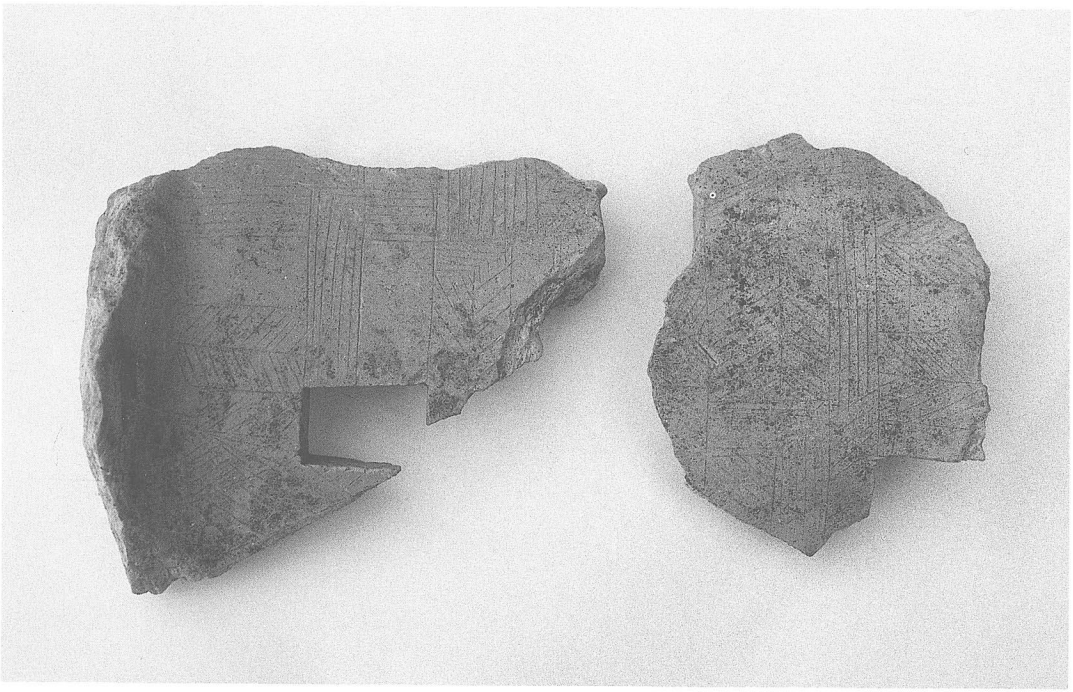
図版第13

P27出土物

P376出土物

P25出土物

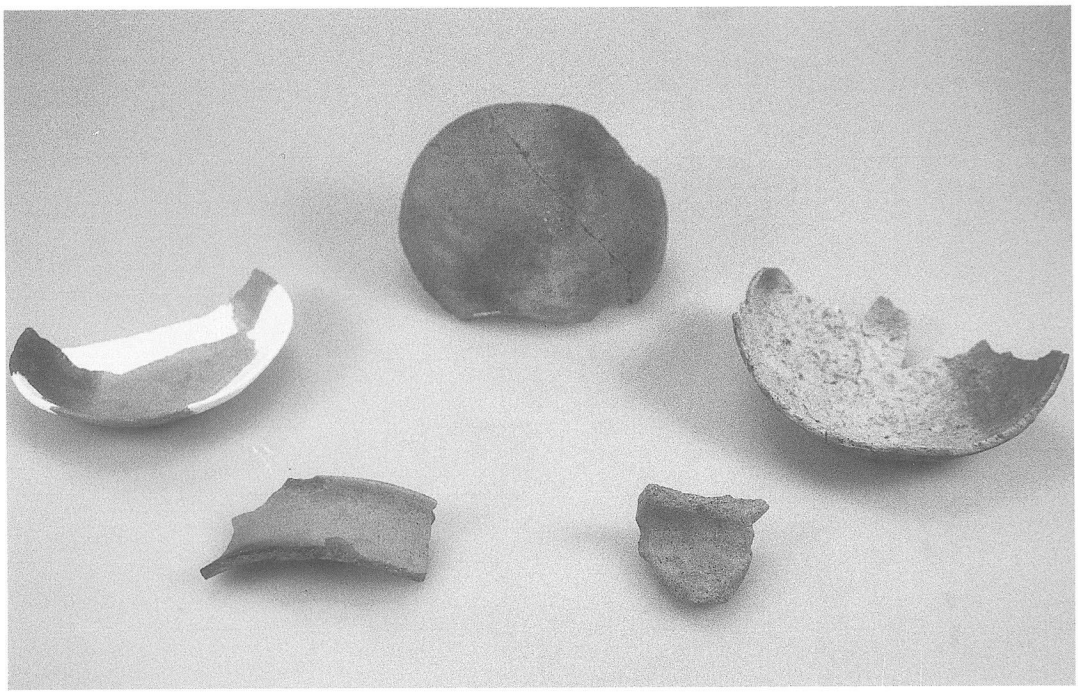
竪穴住居 3
出土物



竪穴住居 4
出土物

竪穴住居 3
竪穴住居13
出土石器

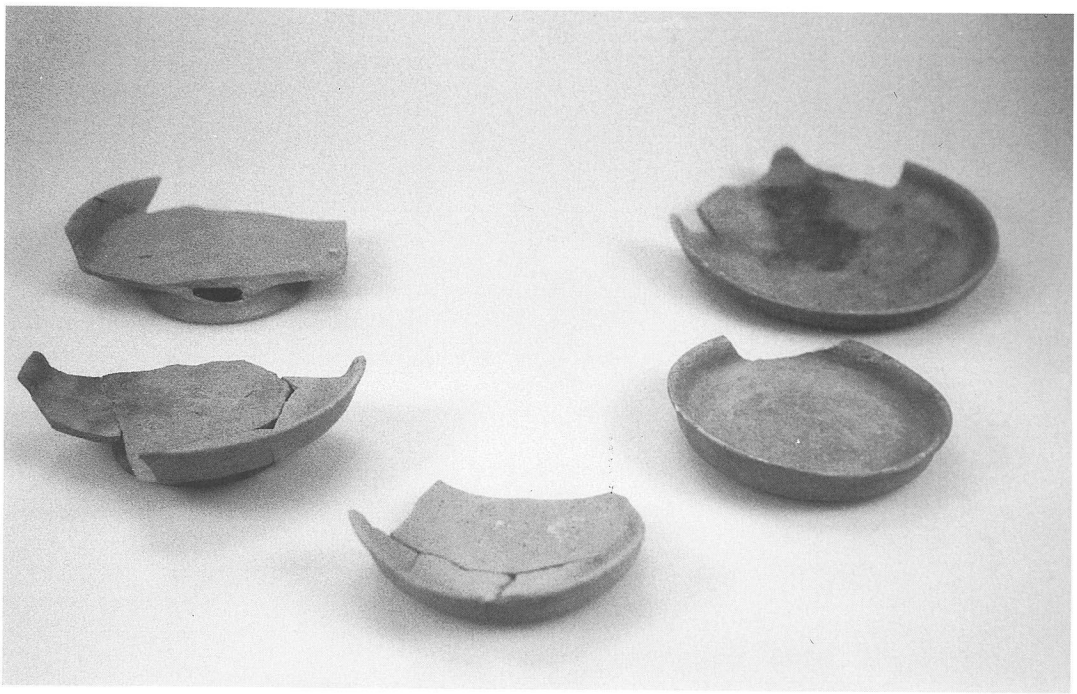
竪穴住居２
Ｐ306
溝10
出土須恵器



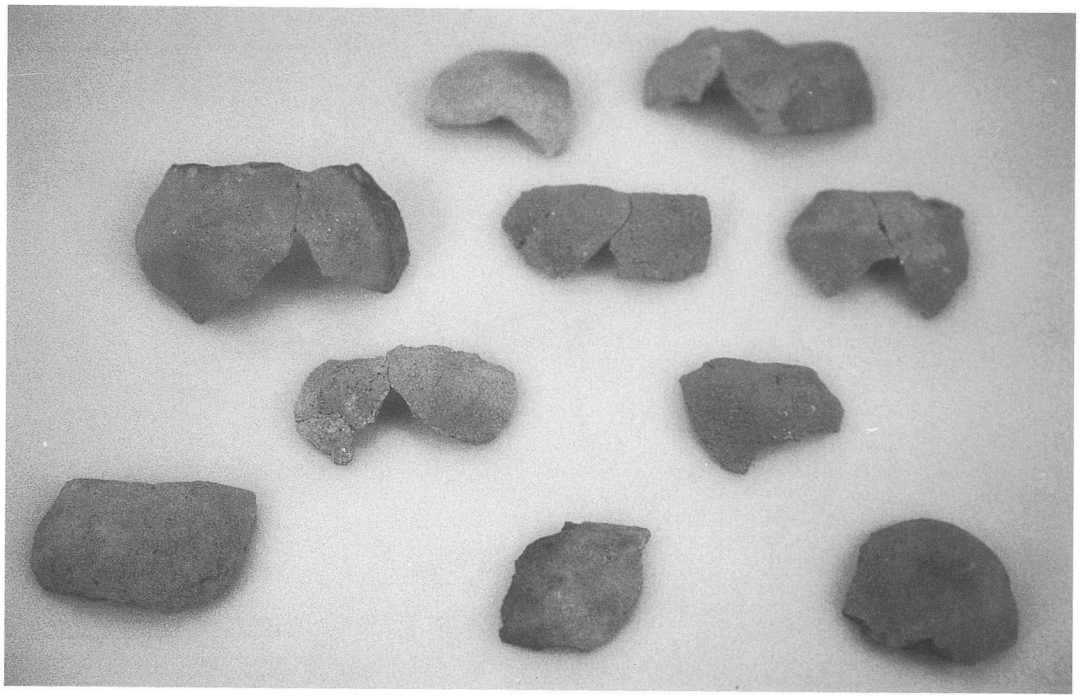
竪穴住居８
出土物

鉄滓溜り出土物

溝２出土須恵器



溝２出土土師器

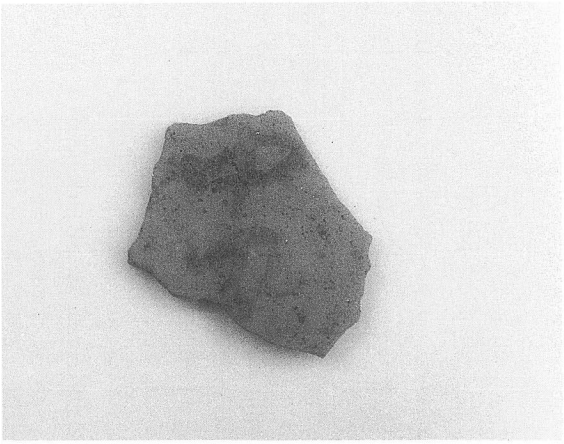


溝２出土製塩土器

図版第17

P110出土物

「左大」
墨書土器

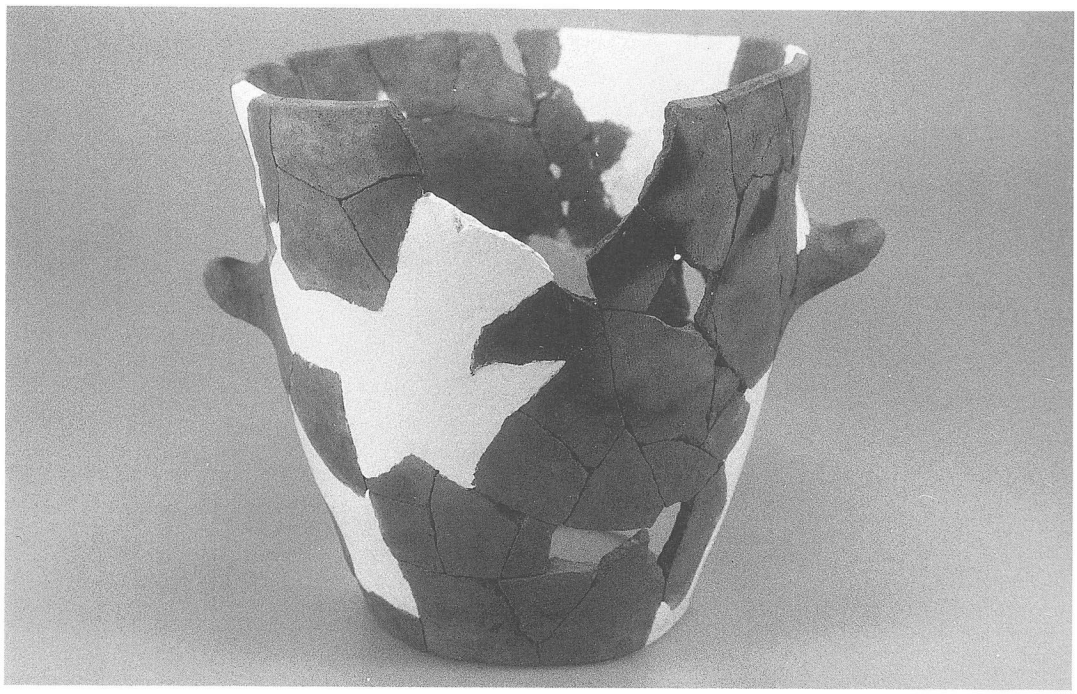


「中男（田）」墨書土器

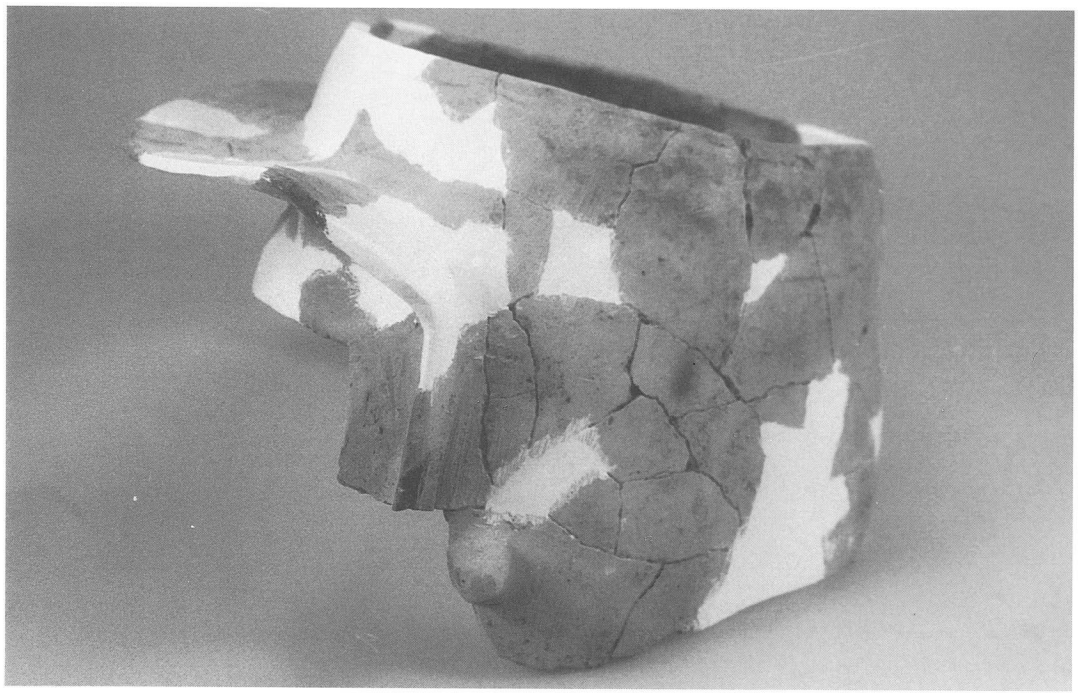
「新盆ヵ」墨書土器

緑釉

溝 2 出土物



溝 2 出土物



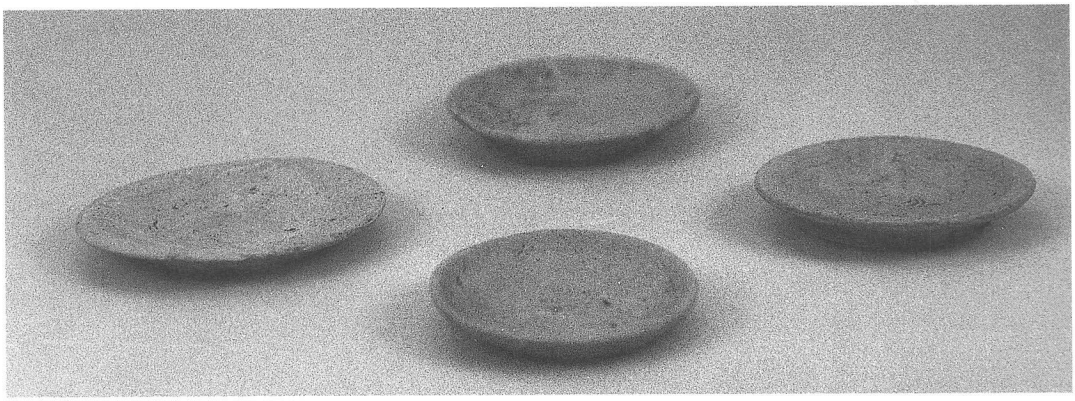
溝 2 出土物

図版第19

P110出土物

椀

杯



皿A．C

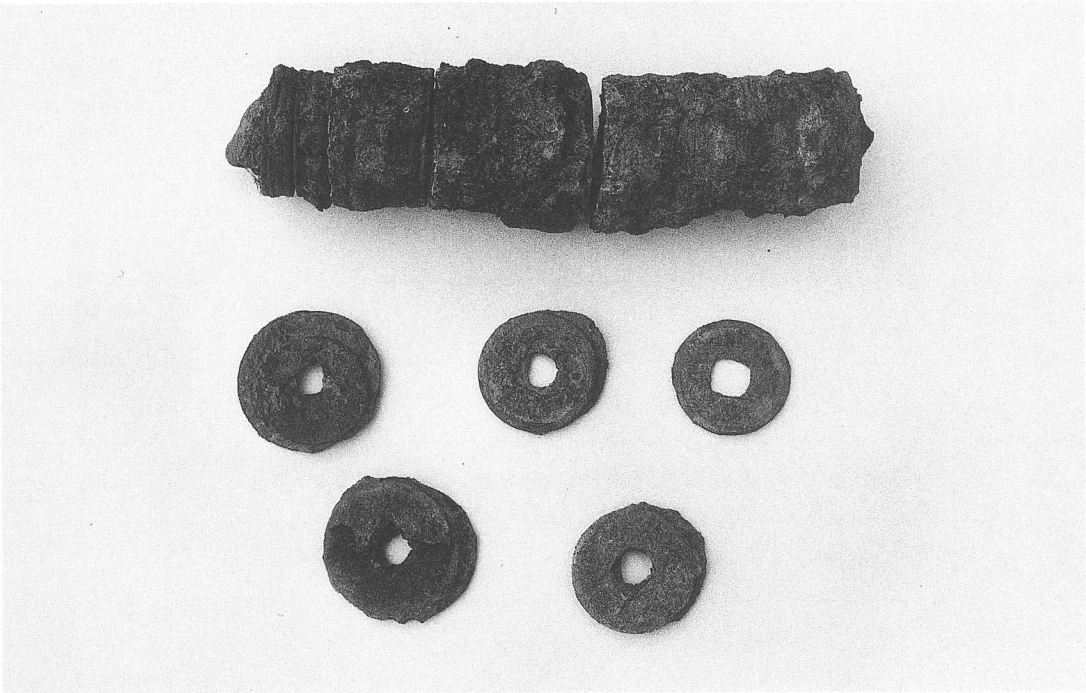
皿B

高台付大皿

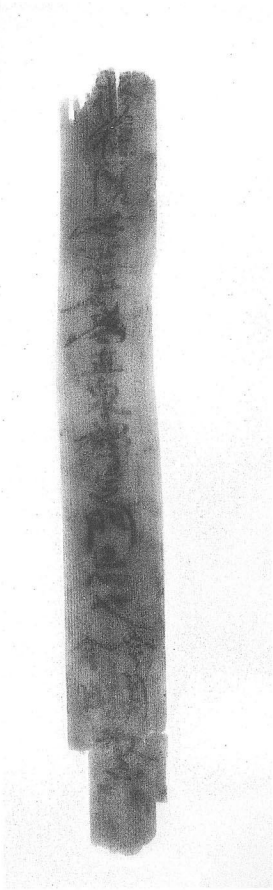
P110出土
輸入陶磁器

溝14出土物
唐津焼・備前焼

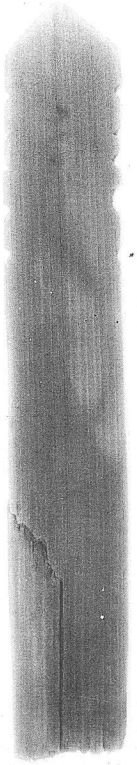
溝14包含層
出土物・瓦



土壙墓３副葬品



溝14下層出土
木簡



溝14下層出土
木製塔婆

近世面
上層出土物

報 告 書 抄 録

ふ り が な	よしのぐちいせき
書 名	吉 野 口 遺 跡
副 書 名	鯉山小学校給食棟建築事業に伴う発掘調査
編 著 者 名	草原孝典・河田健司
編集・発行機関	岡山市教育委員会文化課
所 在 地	〒 700 岡山市大供１－１－１　TEL 086－225－4211
発 行 年 月 日	西暦　1997 年　3月 31 日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
よしのぐちいせき 吉野口遺跡	おかやまけんおかやまし 岡山県岡山市 きびつ 吉備津	33201		34度 40分 10秒	133度 51分 55秒	1991 08 03 ～ 1992 01 31	800	岡山市立鯉山小学校の給食棟建築事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉野口遺跡	生活址 寺院址	縄文　弥生 古墳　奈良 中世 近世	住居 建物 土壙 溝	各時期の土器 陶磁器　瓦 石器　木器	各時期の遺構が良好に遺存していた

あ　と　が　き

現在、私たちの生活しております地面の下には歴史の豊かさを示す多くの文化遺産が存在しており、これらは埋蔵文化財と呼ばれる市民共有の先人達の遺産であり、子孫へ確かに伝えていかなければならない財産であります。

ところが、丘陵そのものを削り取ったり、地下数メートルの地盤の掘削をも伴う最近の開発の激しさは、自然環境の破壊や公害問題はもとより、文化遺産に対しても極めて危険な状況を招来させています。岡山市教育委員会の文化課も文化遺産の保護と調査に努めていますが、土地と一体となっています埋蔵文化財の保護行政は、開発か文化財の現存かのまさに二者択一の修羅場であります。こうした状況の内で、両者の整合を少しでも図るべく記録保存の発掘調査を実施していますが、その社会的要求は天井知らずの恐れさえ覚えさせられます。私は、各種の発掘現場に立つ都度にその奥行きの深さと掛け替えの無さを痛感させられ、文化財保護行政の責務の重要性を改めて肝に銘じるところです。

此度の発掘調査は、市立鯉山小学校の給食棟建築事業に起因したものです。調査は対策委員の先生方のご指導と、多くの関係者の皆様方のご尽力とご協力により無事終了し、ようやくここに報告書の刊行にまで漕ぎ着けました。極寒下での作業を偲びながら、各位にここに感謝申し上げます。

発掘調査の成果はこの報告書にまとめましたが、今後の埋蔵文化財の保護保存と調査に、さらに私達の共有財産である郷土の文化財に対する理解と認識を深める一助となることを願うものです。

最後に、此度の発掘調査並びに報告書の作成に厳しい状況の下で精力的な取り組みを遂行させた文化課の関係職員の労を多とします。

平成９年３月31日

岡山市教育委員会社会教育部
文化課長　富　岡　　博　司

吉野口遺跡発掘調査報告

平成9年3月31日発行

製作・編集　岡山市教育委員会文化課
発　　行　岡山市教育委員会
　　岡山市大供1－1－1
印　　刷　有限会社　ダイニ印刷